

内 科 学 (1)

教 授 矢 野 三 郎
助 教 淺 沼 克 次
講 師 伊 藤 正 己
講 師 中 尾 皖 英
助 手 加 藤 弘 巳
助 手 赤 川 直 次
助 手 藤 井 隆 彦
助 手 鈴 木 英 彦
助 手 杉 森 正 克

◆ 著 書

1) 矢野三郎：ホルモン受容体とその異常，76—83，現代皮膚科学大系第2巻B，久木田淳他編，中山書店，1981.

◆ 原 著

1) Suzuki H., Kato H., Nakano N., Yano S. and Kitagawa T.: Solid phase enzyme immunoassay of tobramycin. *J. of Antibiotics* **34**: 1195—1199, 1981.

2) Kanaoka M., Yano S., Kato H. and Nakano N.: Glycyrhethylamino acids: Synthesis and application to enzyme immunoassay for glycyrrhetic acid. *Chem. Pharm. Bull.* **29**: 1533—1538, 1981.

3) 中野直子，加藤弘巳，鈴木英彦，中尾皖英，矢野三郎，金岡又雄：グリチルレチン酸およびグリチルリチンの酵素免疫測定法，*Proc. Symp. WAKAN-YAKU* **14**: 97—100, 1981.

4) 高田正信，井内和幸，吉田耕司郎，飯田博行，木村泰治，杉本恒明，中野直子，加藤弘巳，矢野三郎：グリチルリチン投与による偽アルドステロン症の1例—血中グリチルリチン，血中グリチルレチン酸の検討—，*治療学* **7**: 771—776, 1981.

5) 杉森正克，矢野三郎：抗生物質による重篤な副作用発現を契機にして発見された橋本病，*総合臨床* **30**: 1837—1838, 1981.

6) 藤井 隆，浅沼克次，矢野三郎，板谷啓司：自己免疫性溶血性貧血の発病とともに再発したBasedow 病の1症例，*代謝* **18**: 1369—1376, 1981.

7) 矢野三郎，浅沼克次，中尾皖英，加藤弘巳：脳循環障害に対するエビサニンの臨床使用経験，*現代の診療* **23**: 141—145, 1981.

8) 鈴木英彦，加藤弘巳，矢野三郎，北川常廣，猪瀬宣昭：固相法によるトブラマイシンのエンザイ

ムイムノアッセイに関する研究，*臨床化学シンポジウム* **20**: 153, 1981.

9) 浅沼克次，藤井 隆：性ホルモンと免疫，*ホルモンと臨床* **29**: 2—7, 1981.

10) Ito M., Iizuka H., Masuno T., Yasunami R., Ogura T., Yamamura Y. and Azuma I.: Killing of tumor cells *in vitro* by macrophages from mice given injections of squalene-treated cell wall skeleton of *Nocardia rubra*. *Cancer Res.*, **41**: 2925—2930, 1981.

◆ 総 説

1) 矢野三郎：グリチルレチン酸の酵素免疫測定法，*MINOPHAGEN MEDICAL REVIEW* **26**: 220—225, 1981.

2) 矢野三郎，中野直子：カンゾウ(甘草)，*治療学* **7**: 703—708, 1981.

3) 矢野三郎：肥満とやせ，*日本臨床* **39**: 1554—1555, 1981.

4) 矢野三郎，加藤弘巳：肥満の減量法—薬物療法，産婦人科の実際 **30**: 1579—1583, 1981.

5) 矢野三郎，加藤弘巳：図説・ホルモン受容体のメカニズム，*日本臨床* **39**: 2918—2920, 1981.

6) 藤井 隆，矢野三郎：自己免疫疾患とは，*薬局* **32**: 1437—1442, 1981.

7) 小倉 剛，吉本崇彦，坂谷光則，西川秀樹，榊野富弥，川瀬一郎，難波 学，平尾文男，山村雄一，伊藤正己：免疫調節剤としてのBCG, *Nocardia rubra* のCWSの作用機序，*日本臨床* **39**: 1852—1860, 1981.

◆ そ の 他

1) 矢野三郎：中高年労働者の健康づくりについて(2)—HDL—コレステロール測定の意義，とやま県医報，No. 805: 12—13, 1981.

2) 矢野三郎：血中酵素の異常，とやま県医報，No. 812: 14—15, 1981.

◆ 学会報告

1) 杉山英二，城石平一，鈴木英彦，杉森正克，藤井 隆，赤川直次，加藤弘巳，伊藤正己，浅沼克次，矢野三郎：PIE症候群の1症例，第110回日本内科学会北陸地方会，1981. 2, 金沢.

2) 矢野三郎，金岡又雄：グリチルレチン酸の酵素免疫測定法とその臨床的応用，第1回和漢薬研究所特別セミナー，1981. 3, 富山.

3) 赤川直次，矢野三郎，重松秀一，井上憲昭：中枢神経症状が前景に出たPN型SLEの1剖検例(特に脊髄病変について)，第70回日本病理学会総会，1981. 4, 東京.

4) 赤川直次, 加藤弘己, 伊藤正己, 矢野三郎, 斉藤清二, 伊藤 博: 腓性復水の1例, 第44回日本消化器病学会北陸地方会, 1981. 5, 富山.

5) 浅沼克次, 藤井 隆: 性ホルモンと免疫, 第54回日本内分泌学会総会シンポジウム「内分泌と免疫」, 1981. 6, 岡山.

6) 杉森正克, 伊藤正己, 矢野三郎: 低ナトリウム血症を伴った肺癌の1例, 第5回日本肺癌学会北陸地方会, 1981. 7, 金沢.

7) 伊藤正己: 肺癌における多剤併用化学療法とその評価, 第35回北陸医学会総会シンポジウム, 1981. 9, 富山.

8) 伊藤正己, 鈴木英彦, 中野直子, 矢野三郎: 培養マクロファージ株によるマクロファージの腫瘍細胞傷害能と活性酸素産生の検討, 第40回日本癌学会総会, 1980. 10, 札幌.

9) 鈴木英彦, 伊藤正己, 中野直子, 矢野三郎: 腫瘍細胞傷害性マクロファージの O_2^- , H_2O_2 産生能, 第40回日本癌学会総会, 1981. 10, 札幌.

10) 伊藤正己: 糖尿病における呼吸器感染症, 日本結核病学会, 日本胸部疾患学会, 日本気管支研究会合同北陸地方会シンポジウム, 1981. 11, 金沢.

11) 伊藤正己, 鈴木英彦: Role of macrophages. Naito Foundation International Symposium on Self Defense Mechanism, 1981. 11, 東京.

12) 杉山英二, 杉森正克, 鈴木英彦, 赤川直次, 伊藤正己, 浅沼克次, 矢野三郎: 原発性肺アミロイドーシスの1例, 日本内科学会東海北陸合同地方会, 1981. 11, 岐阜.

13) 藤井 隆, 竹田航一, 浅沼克次, 矢野三郎: マウス脾リンパ球の芽球化反応ならびにEACロゼット形成細胞に及ぼす Estradiol の影響, 第11回日本免疫学会総会, 1981. 12, 東京.

14) 浅沼克次, 藤井 隆, 矢野三郎: 性ホルモンの免疫応答—エストラジオール及びテストステロンの液性抗体産生能に及ぼす影響—, 第11回日本免疫学会総会, 1981. 12, 東京.

15) 伊藤正己, 鈴木英彦, 中野直子, 杉森正克, 杉山英二, 浅沼克次, 矢野三郎: マクロファージの発生・分化に及ぼす *Nocardia rubra* cell wall skeleton の影響, 第11回日本免疫学会総会, 1981. 12, 東京.

内 科 学 (2)

教 授	杉 本 恒 明
助 教	水 村 泰 治
講 師	浦 岡 忠 夫
講 師	飯 田 博 行
助 手	寺 田 康 人
助 手	高 田 正 信
助 手	余 川 茂 幸
助 手	井 内 和 幸
助 手	井 上 雄 吉

◆ 著 書

1) 杉本恒明: 心不全における末梢循環障害, 88—93, うっ血性心不全, 安田寿一編, 金原出版, 1981.

2) 杉本恒明: 心脈管の中樞神経支配, 79—83, 循環器病学, 安田寿一編, 診断と治療社, 1981.

3) 紺谷一浩, 杉本恒明: 大動脈炎症候群, Buerger 病, 884—898, 循環器病学, 安田寿一編, 診断と治療社, 1981.

4) 杉本恒明: 徐脈性不整脈, 754—766, 心臓病学, 戸山靖一他編, 金芳堂, 1981.

5) 杉本恒明: チアノーゼ, 305—311, 内科鑑別診断学, 上田英雄他編, 朝倉書店, 1981.

6) 杉本恒明: 急性心包炎, 慢性収縮性心包炎, 298—300, 内科予後診療指針, 大友英一他編, 文光堂, 1981.

7) 杉本恒明: 細菌性心内膜炎, 296—298, 内科予後診療指針, 大友英一他編, 文光堂, 1981.

8) 杉本恒明: Ca^{++} 拮抗剤と不整脈, 28—34, Ca^{++} 拮抗剤の最近の知見, 世界保健通信社, 1981.

9) 水村泰治: 腹部単純撮影の意義, 66—62, 内科Q&A腎臓病, 越川昭三他編, 金原出版, 1981.

◆ 原 著

1) Sugimoto T., Ishikawa T., Kaseno K., and Nakase S.: Electrophysiologic effects of diltiazem, a calcium antagonist, in patients with impaired sinus or atrioventricular node function. *Angiology* 31: 700—709, 1980.

2) 橋場邦武, 高木 誠, 小松作蔵, 桜井淑史, 杉本恒明他16名: 洞不全症候群 (sick sinus syndrome) 患者調査結果の中間報告, 心臓ペーシング 第3回ペースメーカー公開研究会プロシーディングス (1979), 27—32, 1980.

3) 橋場邦武, 高木 誠, 小松作蔵, 桜井淑史, 杉本恒明他17名: 洞不全症候群 (sick sinus